

株主通信 (第86期 第3四半期)

2020年4月1日～2020年12月31日

Passion for the Next Innovation

～次なる革新への熱い思い～

株式会社 電業社機械製作所

証券コード 6365

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
この度の新型コロナウイルス感染症に罹患された方々には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご回復をお祈り申し上げます。
ここに、第86期 第3四半期の株主通信をお届けいたします。
当社は今年度から「中期経営計画2022 D-Active」を新たに策定し、2022年度までの数値目標として、受注高230億円、営業利益20億円、営業利益率10.0%、ROE7.0%の4項目を掲げ、取り組んでいます。
今年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、厳しい経済環境が続いていますが、当社においては、例年に比べて期初における受注残が多かったことに加え、官需部門および海外部門で受注が堅調に推移していることなどから、当第3四半期連結累計期間における業績は、前年同期に比べて大きく改善しました。引き続き、全社一丸となって目標達成に向けて邁進してまいります。
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年3月

代表取締役社長

村林秀晃



事業の概況

■経営環境

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、深刻な影響を受けました。欧米では、経済活動の再開により一旦は持ち直しの動きが見られましたが、秋からの感染再拡大により予断を許さない状況が続いています。一方、早期に経済活動を再開した中国では、景気の回復傾向が継続しました。わが国経済においては、各種経済対策等の効果や中国等の需要回復を受けて、個人消費や製造業を中心とした輸出に持ち直しの動きが見られましたが、年末からの新規感染者の急増により、1月には緊急事態宣言が再発出されるなど、先行きは依然として不透明な状況が続いています。

■経営成績

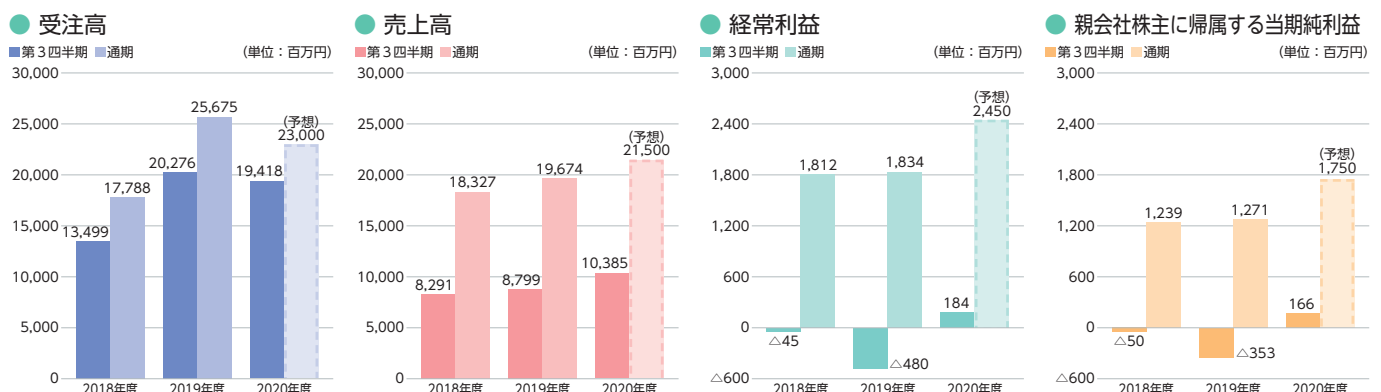
当社グループの当第3四半期連結累計期間における受注額は、大型案件の受注があった官需部門と海外部門で好調に推移したことから、同様に大型案件の受注が好調であった前年同期並みの194億18百万円（前年同期比95.8%）となりました。売上高については、官需部門と海外部門が前年同期に比べて増加したことから、103億85百万円（前年同期比118.0%）となりました。利益については、前年同期に比べて売上高が増加したことに加え、生産本部における設計の最適化、出図工程の早期化及び生産工程の改善による生産性向上並びに調達改善による原価低減効果などから、営業利益28百万円（前年同期営業損失5億97百万円）、経常利益1億84百万円（前年同期経常損失4億80百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億66百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失3億53百万円）と大きく改善しました。

■通期の見通し

当社グループの受注につきましては、官需部門の受注が好調なことから、2020年11月13日公表の前回予想から増加して230億円となる見込みです。

2021年3月期の連結業績予想につきましては、前回予想から変更はありません。

連結財務ハイライト





日本赤十字社ほか医療機関への寄付

この度、新型コロナウイルス感染症による影響を受けられました皆様へ心からお見舞い申し上げます。また、医療現場をはじめとした感染拡大防止に最前線でご尽力いただいている皆様へ心より感謝と敬意を表します。

2021年2月、当社は創立65周年（創業110周年）記念事業として、地域貢献や医療支援を目的に日本赤十字社静岡県支部に1,000万円の寄付を行いました。また、静岡県健康福祉部および独立行政法人 地域医療機能推進機構 三島総合病院にも併せて寄付を行いました。

本寄付金は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に最前線でご尽力いただいている医療従事者の皆様への活動支援として活用される予定です。新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束するよう心よりお祈り申し上げます。

当社も引き続きグループ一丸となり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めてまいります。



●日本赤十字社静岡県支部にて寄付金目録の贈呈



●感謝状



SDGsへの取り組み

Sustainable Development Goals（以下SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられた2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットで構成された国際目標です。

当社は、「中期経営計画2022 D-Active」の基本戦略の一つにSDGsの推進を掲げており、2030年をターゲットイヤーとする国際目標の達成に向けて取り組みを開始しました。

当社は長年に亘り、水と空気を扱う流体機械の製造・販売を通じて環境負荷低減や地域社会の課題解決に取り組むことにより、持続可能な社会の実現を目指してきました。今後も、従来から注力してきた環境面のほか、社会、経済も合わせた3側面から17ゴールを捉え、SDGsの目標達成にチャレンジしていきます。

今般、SDGsの17ゴールとの親和性を確認し、リニューアルを実施した「環境報告書2019 with SDGs」をホームページに掲載いたしました。環境面から捉えた10のゴールの課題解決に向けた取り組みを紹介しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



●環境報告書2019 with SDGs



ホームページ
のご案内

当社ホームページ

<https://www.dmw.co.jp/ir/>

最新のIR情報につきましては、
当社のホームページ「IR情報」を
ご参照ください。

「株主・投資家情報」
検索はこちらから▼

電業社 IR

検索

